



古閑部会長

部会長あいさつ

新部会長
木村さん

新役員紹介

新部会長に木村さん

役員改選で新部会長に木村克幸さん、副部会長に西山裕次郎さん、有田博行さんが就任しました。令和8年度は、不安定な天候が続く中、高温対策の徹底や2番花以降の花芽検鏡体制の強化を課題とし、販売面では海外輸出に力を入れます。生産コスト高騰対策として、出荷用段ボールや包装資材の見直しにも積極的に取り組みます。

〈優績農家21戸を表彰〉



宮川忠幸さん・いづみさん、矢島靖雄さん・きぬよさん、木村健人さんが代表で表彰状を受け取りました。躍進賞には、檜枝桃菜さんを表彰。

「きくちいちご」「大玉イチゴ」高評価

令和7年度は、特別販売品(大玉限定の黒箱)や業務提携なども行い、有利販売につなげることができました。販売実績:4億2千800万円(前年対比100%)。販売数量:203トン(前年対比97%)。販売単価:1キログラム2116円(前年対比103%)。品種は「ひのしずく」を中心に、「ゆうべに」「恋みのり」の3種。育苗期の高温により出荷の遅れがありましたが、2、3月の収穫ピーク時には例年にない増量となり、海外からの引き合いも強く、海外輸出に積極的に取り組みました。気候変動に悩まされるも部会員の一致団結で、品質の良いきくちいちごを出荷することができました。信用・信頼・長年の努力の積み重ねの結果です。これからもきくちブランドを高めていきます。

JA菊池自己改革タスクフォース2次計画へ移行

総合企画室

3年目の導入効果1.6億円

JA菊池自己改革タスクフォース(JA営農経済事業成長・効率化プログラム)の最終報告会を6月24日、パシオンで開きました。JA役職員、農林中央金庫、JA共済、JA熊本経済連、JA熊本中央会ら73人が出席。全19項目のソリューションに対する実績報告を行いました。

※このプログラムは令和元年度から、全国のJAが各連合会とプロジェクトチームを作って取り組んでいるものです。

令和5年度から7年度までの3年間実施

JAや地域農業を持続可能なものとするために、営農・経済事業の収益向上や効率化による収支改善を重視し、JAの経営基盤強化に取り組みしました。導入効果目標は2.3億円、実績は1.6億円でしたが、事業利益の黒字水準を確保することができました。

営農分野では、生産資材の物流コストの抑制や購買店舗の営業時間の見直しによる事務の効率化を実施し、巡回を行える環境を整備。延べ107日分の業務効率化を達成しました。

畜産分野では、キャトルブリーディングステーション事業の収支改善に取り組み、子牛の事故率低減などコストの削減につなげることができました。

組織再編では、拠点整理と機能を見直し、令和7年7月より農業機械課と自動車課の2拠点で業務を開始。アグリサポートワゴン車による出張修理の対応強化を図りました。

地域農業を守っていくため、JA自らが改革し、農家の所得向上につながる取り組みをすすめてまいります。地域になくてはならないJAであるために、引き続き事業収支改善への取り組みを継続し、第2次タスクフォースに移行します。

※令和8年度から10年度までの3年間で、10項目の施策により総額1.2億円の導入効果を見込んでいます。



19項目のソリューション実績報告